

「三重県の食に関する取組について」と「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」e-モニターアンケート実施報告書

「三重県の食に関する取組について」と「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」のアンケートの実施結果を、下記のとおりご報告いたします。

アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆様には厚くお礼を申し上げます。

結果につきましては、今後の取組に活用させていただきます。

アンケート概要

- 1 実施期間 令和2年11月27日（金）から12月10日（木）まで
- 2 対象者数 952人
- 3 回答数 575人
- 4 回答率 60.4%
- 5 回答者属性

【年齢階層別】

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代
回答者数	2人	27人	114人	150人
構成比	0.3%	4.7%	19.8%	26.1%
	50歳代	60歳代	70歳代以上	
回答者数	127人	104人	51人	
構成比	22.1%	18.1%	8.9%	

【地域別】

	北勢	中南勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
回答者数	275人	168人	70人	52人	10人
構成比	47.8%	29.2%	12.2%	9.0%	1.7%

北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曾岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町

中南勢：津市、松阪市、多気町、明和町、大台町

伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町

伊賀：名張市、伊賀市

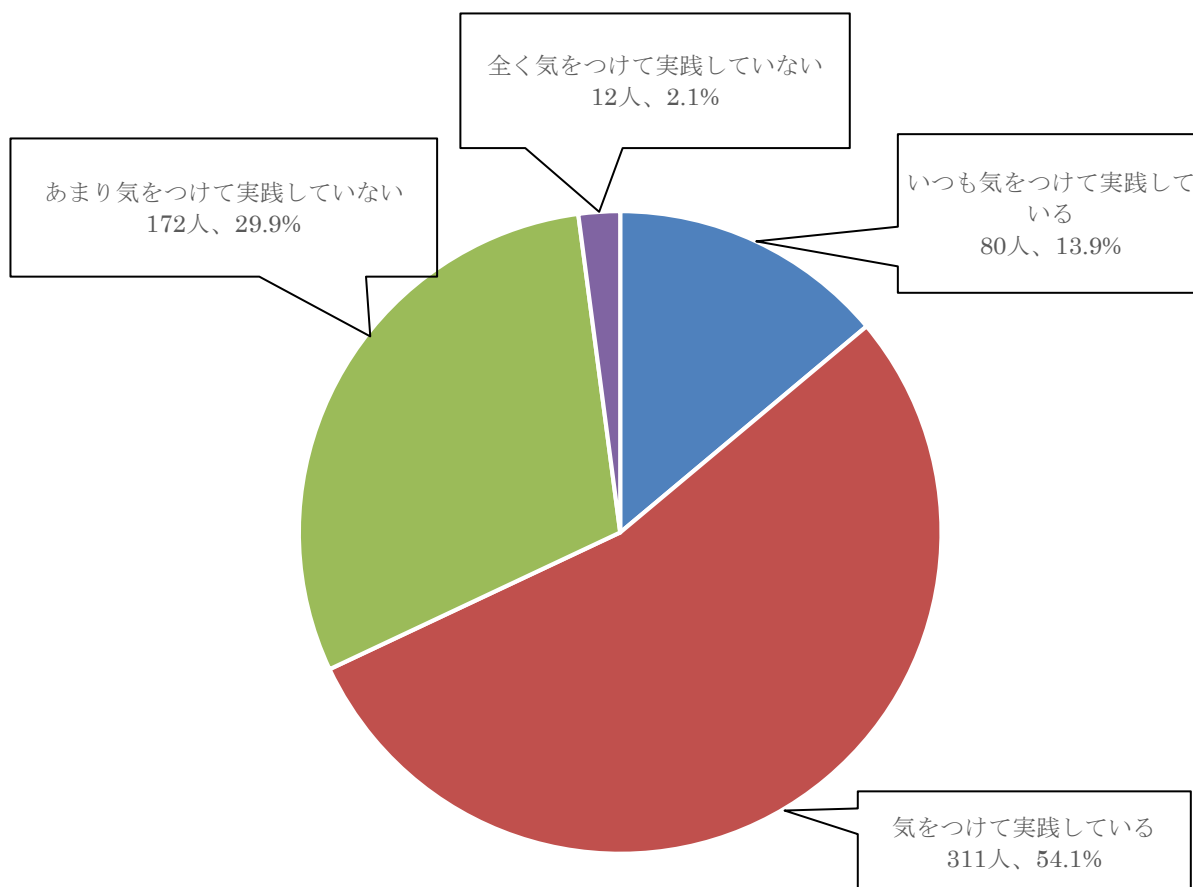
東紀州：尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

(注) グラフ、説明文中の割合は小数点第2位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

○アンケート結果

(Q1 健康を意識した食生活の実践について)

生活習慣病の予防や改善のために、あなたはふだんから適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践していますか。あてはまるものを1つ選んでください。

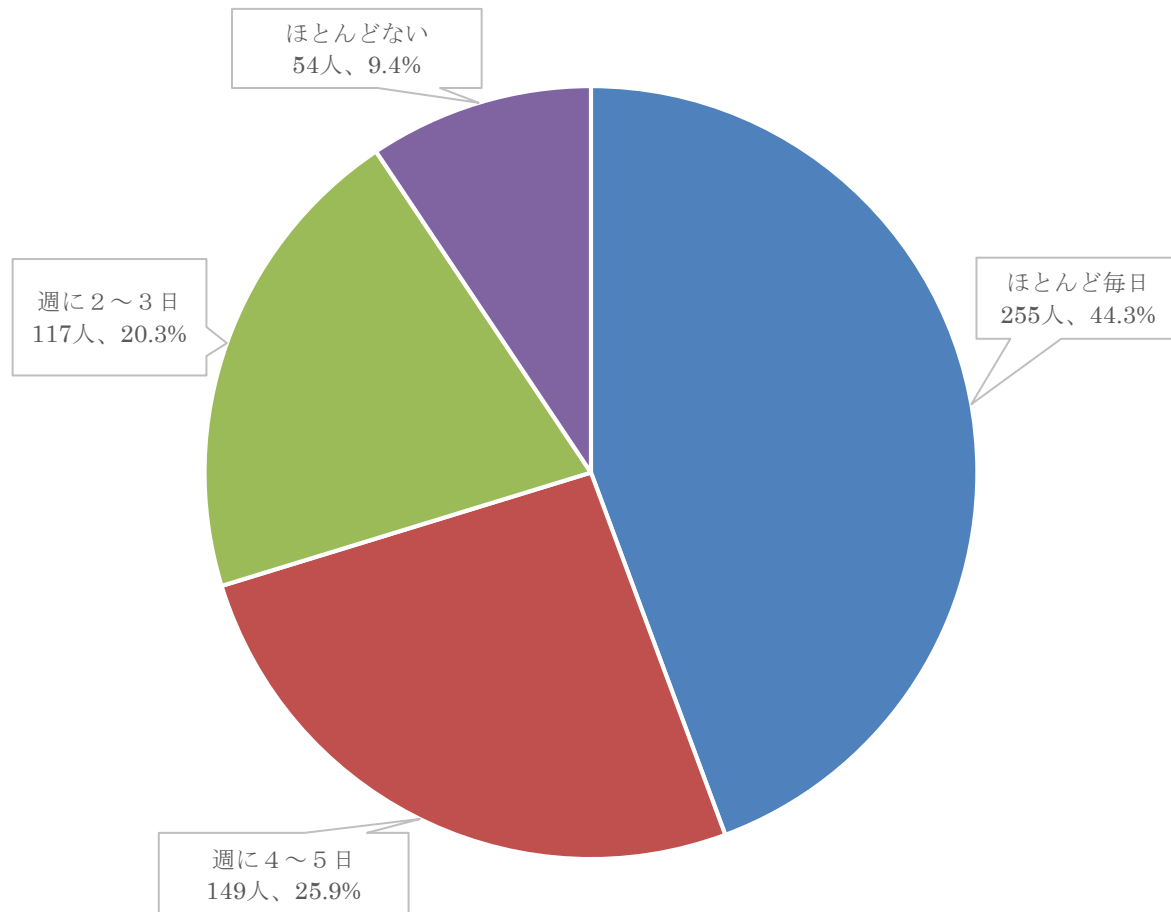


健康を意識した食生活を実践しているかについて聞いた結果、「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と答えた方が 391 人 (68.0%)、「あまり気をつけて実践していない」「全く気をつけて実践していない」と答えた方は 184 人 (32.0%) でした。

R1 年度の e-モニターアンケートで「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」と回答された方は 64.2% であり、健康を意識した食生活を実践している人の割合が増えました。

(Q2 バランスよく食べることについて)

主食（ごはん、パン、麺類などの料理）、主菜（魚介類、肉類、卵類、大豆・大豆製品を主材料にした料理）、副菜（野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理）の3つを組み合わせる食べることが1日に2回以上あるのは週に何日ありますか。あてはまるものを1つ選んでください。



バランスよく食事するかどうかについて聞いた結果、主食、主菜、副菜の3つを組み合わせる食べることが1日に2回以上あるのが「ほとんど毎日」と回答された方が、255人（44.3%）、「週に4～5日」と回答された方が149人（25.9%）で、週の半分以上の日でバランスよく食事できているのは404人（70.3%）と全体の7割を占めていました。

R1年度のe-モニターアンケートでは66.4%であり、バランスよく食べる人の割合が増えました。

(Q3 家族との食事について)

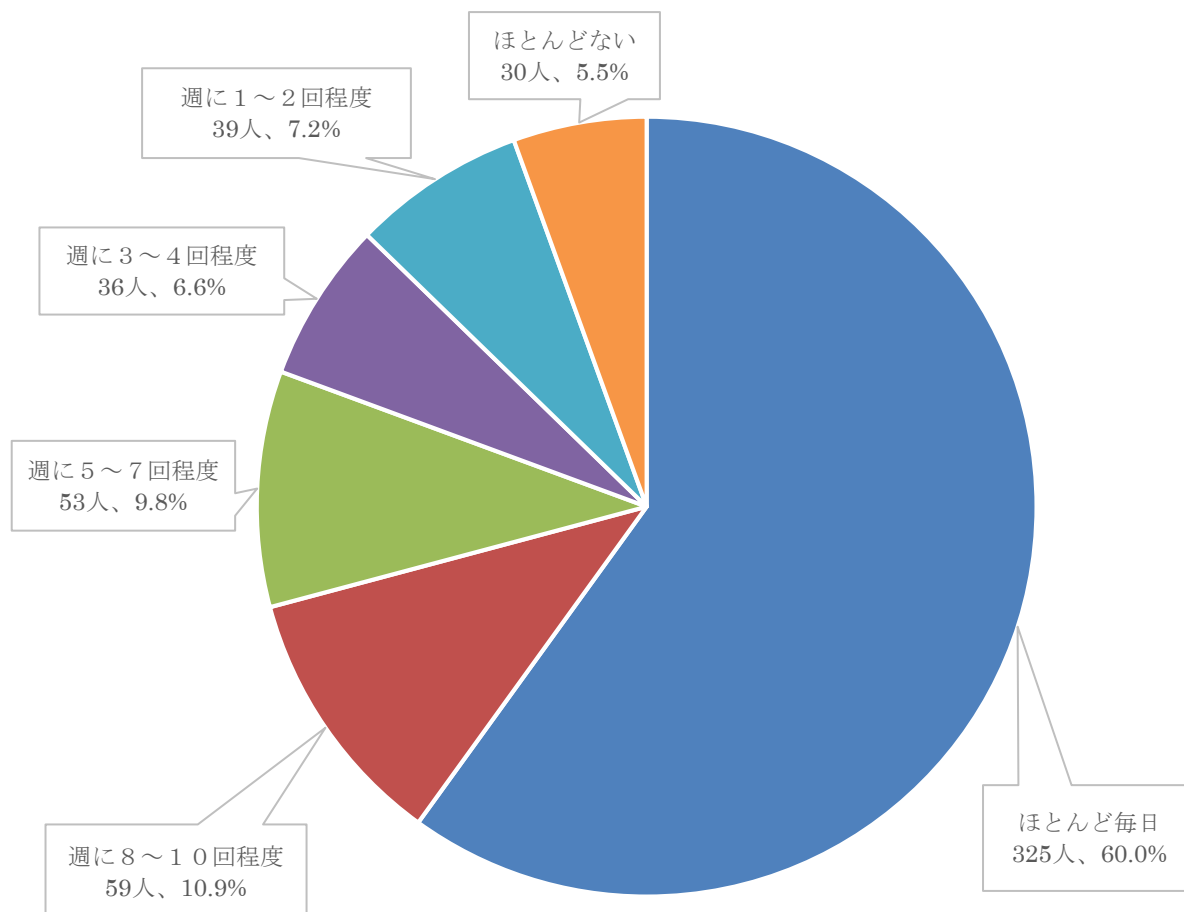
同居家族がいらっしゃる方にお聴きします。

家族と一緒に食事をする機会はどの程度ありますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

※家族数は問いません。

※朝食および夕食の場合でお答えください。(1週間で総数14回になります。)

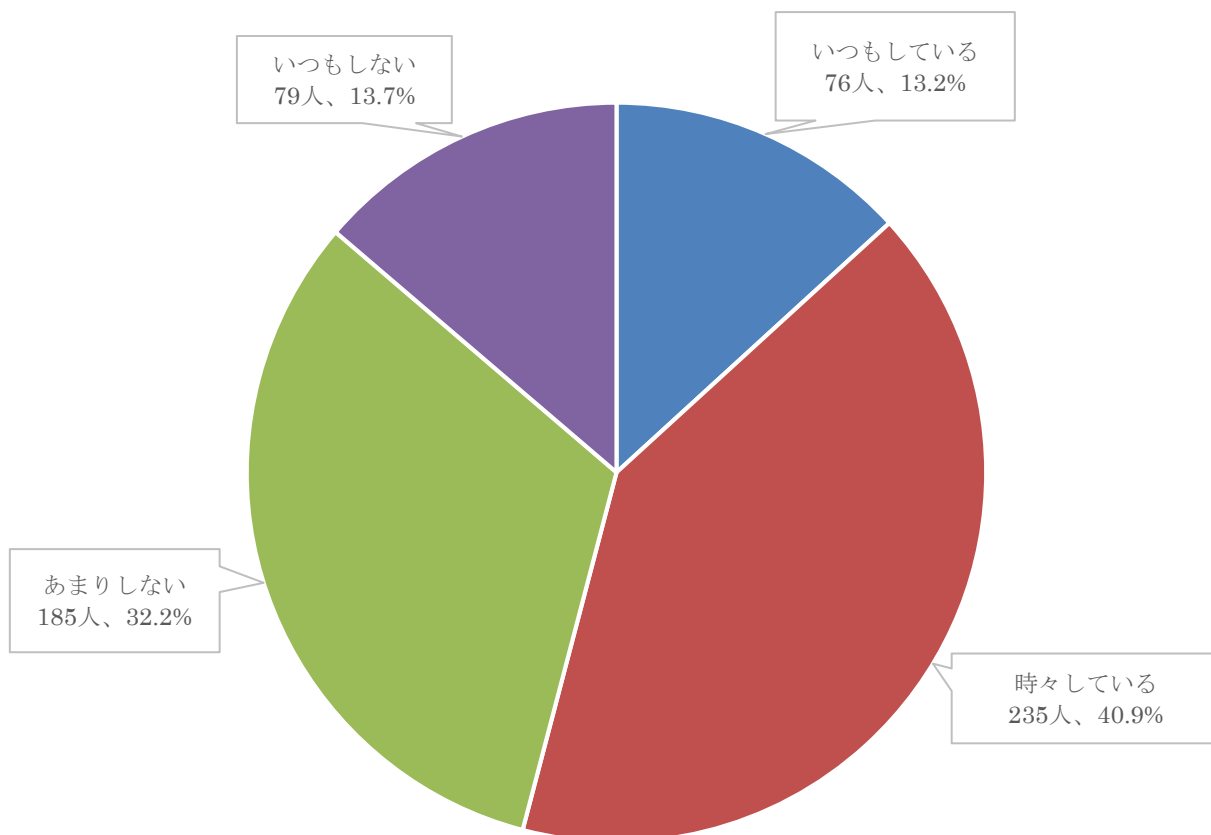


家族と一緒に食事をする機会について回答していただいた方 542 人のうち、「ほとんど毎日」と回答された方が、325 人 (60.0%) で、「週に 8~10 回程度」と回答された方 59 人 (10.9%) を合わせると 384 人 (70.8%) と約 7 割を占めました。

R1 年度の e モニターアンケートでは「ほとんど毎日」「週に 8~10 回程度」と回答された方は 66.4% であり、家族と一緒に食事をする人の割合が増えました。

(Q4 栄養成分表示について)

容器包装に入れられた加工食品には、エネルギーや栄養成分（たんぱく質、塩分など）の含有量が表示されていますが、あなたはふだん食品を購入する時に、栄養成分の表示を参考にしていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

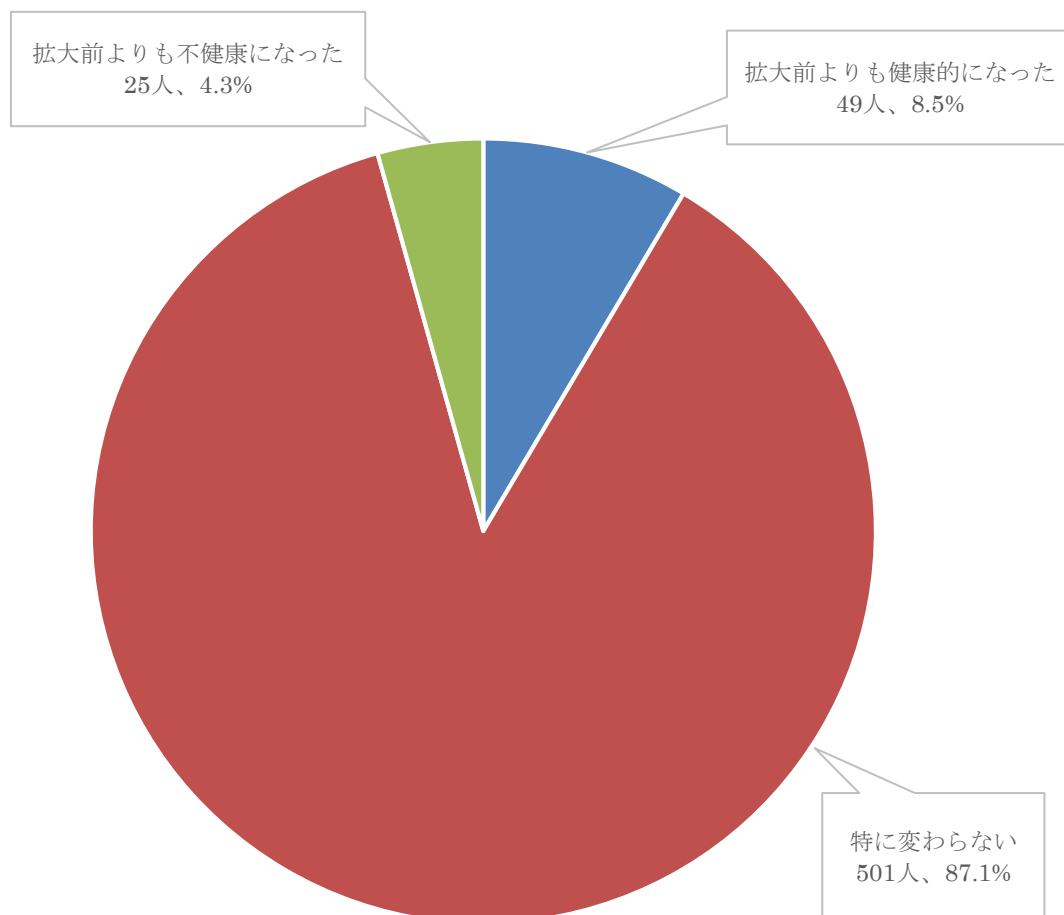


食品を購入する時に栄養成分表示を参考にしているかについて聞いた結果、「いつもしている」と回答された方が76人（13.2%）でした。「時々している」と回答された方235人（40.9%）を合わせると、311人（54.1%）と、半数以上の方が栄養成分表示を参考にしていました。

R1年度のe-モニターアンケートでは、「いつもしている」「時々している」と回答された方は54.7%であり、食品を購入するときに、栄養成分表示を参考にする人の割合はほぼ横ばいです。

(Q5 新型コロナウイルス感染症の拡大による食生活の変化・影響について)

新型コロナウイルス感染症の拡大前後で、あなたのふだんの食生活に変化や影響がありましたか。あてはまるものを1つ選んでください。



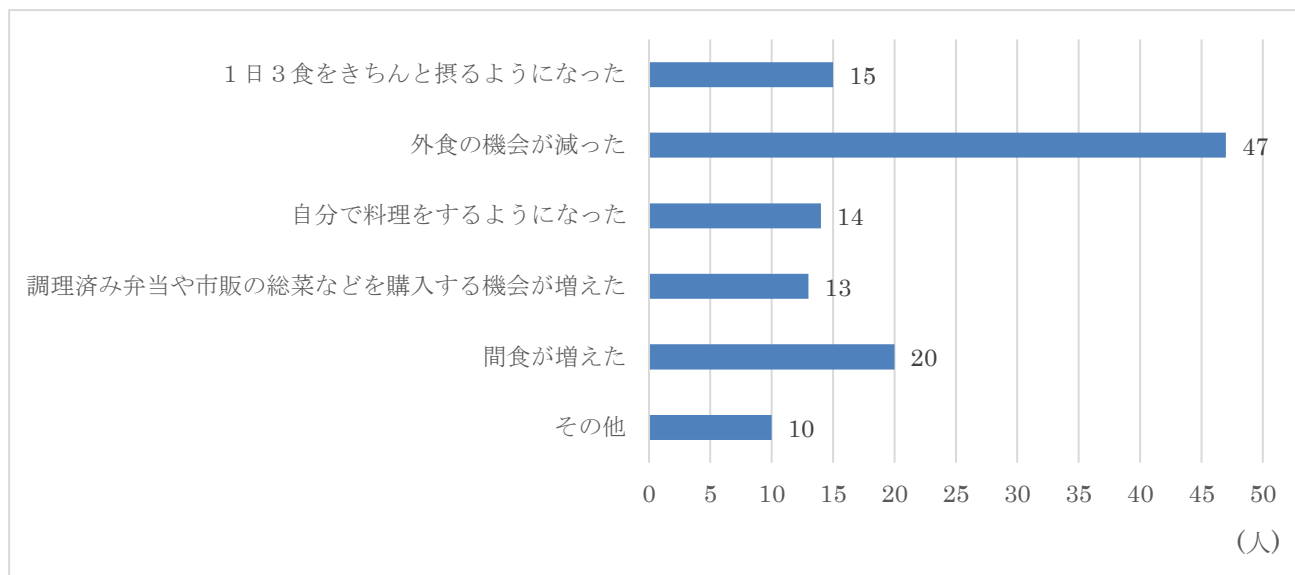
新型コロナウイルス感染症の拡大による食生活の変化について聞いた結果、「特に変わらない」と回答された方が501人(87.1%)と大多数を占めました。

一方で、変化があったと回答された方は、「拡大前よりも健康的になった」が49人(8.5%)で「拡大前よりも不健康になった」の25人(4.3%)を上回りました。

(Q6 新型コロナウイルス感染症の拡大による食生活の変化・影響について 2)

Q5で「拡大前よりも健康的になった」または「拡大前よりも不健康になった」を選んだ方にお聞きします。

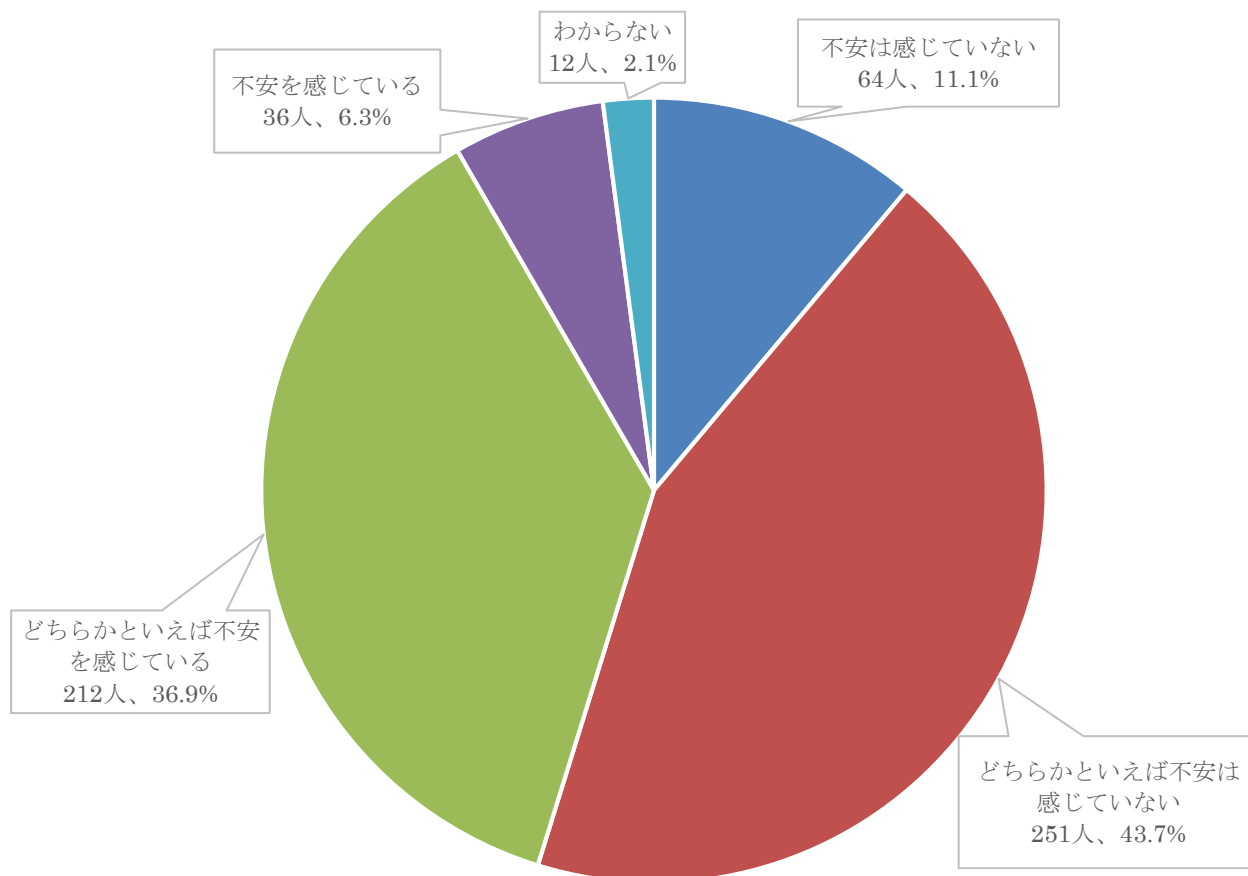
食生活で変化のあった具体的な事柄は何ですか。あてはまるもの全て選んでください。



Q5で「拡大前よりも健康的になった」または「拡大前よりも不健康になった」と回答された方74人について、食生活で変化のあった事柄を聞いたところ、「外食の機会が減った」が47人(63.5%)で最も多く、次いで「間食が増えた」20人(27.0%)、「1日3食をきちんと摂るようになった」15人(20.3%)と続きました。

(Q7 食品の安全性について)

あなたは、食品の安全性について、ふだん不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。



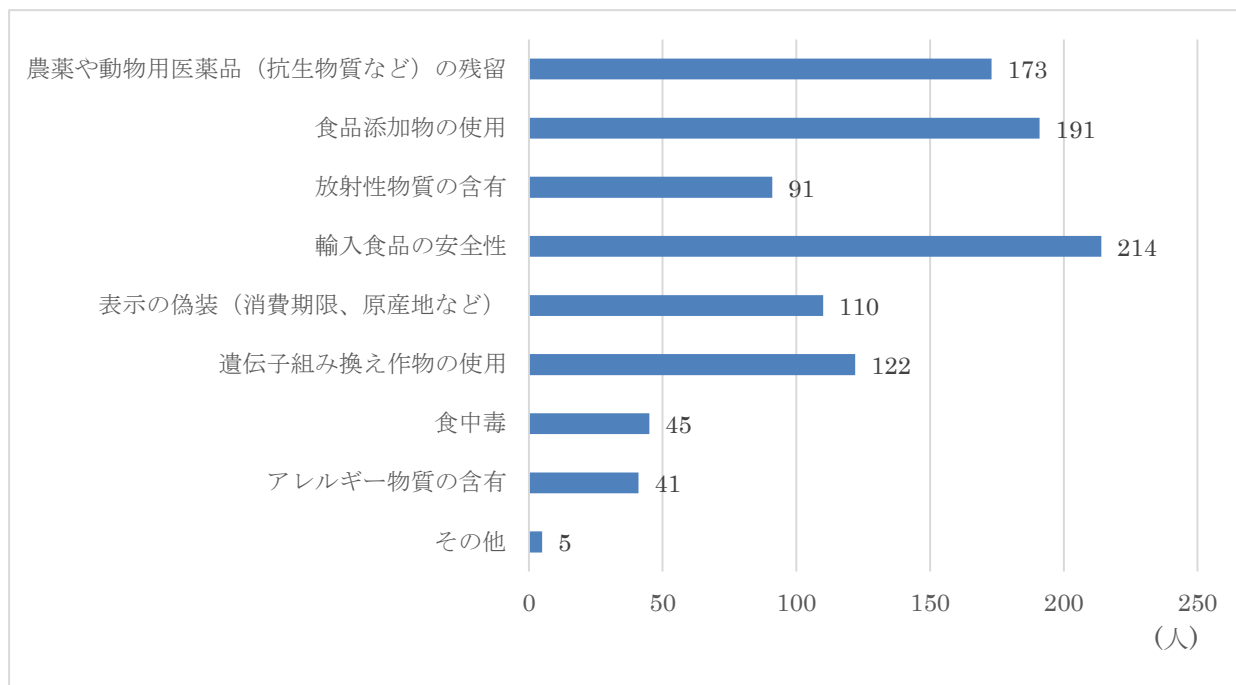
食品の安全性について聞いた結果、「不安を感じている」「どちらかといえば不安を感じている」と回答された方の合計が 248 人 (43.1%)、「不安は感じていない」「どちらかといえば不安は感じていない」と回答された方の合計は 315 人 (54.8%) でした。

R1 年度の e-モニターアンケートの結果と比べると、「不安を感じている」「どちらかといえば不安を感じている」という方の割合は減り (R1 年度は 48.2%)、「不安は感じていない」「どちらかといえば不安は感じていない」という方の割合が増えました (R1 年度は 50.7%)。

(Q8 不安を感じる理由について)

Q7で「どちらかといえば不安を感じている」「不安を感じている」を選んだ方にお聞きします。

あなたは、食品の安全性について、どのような不安を感じていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

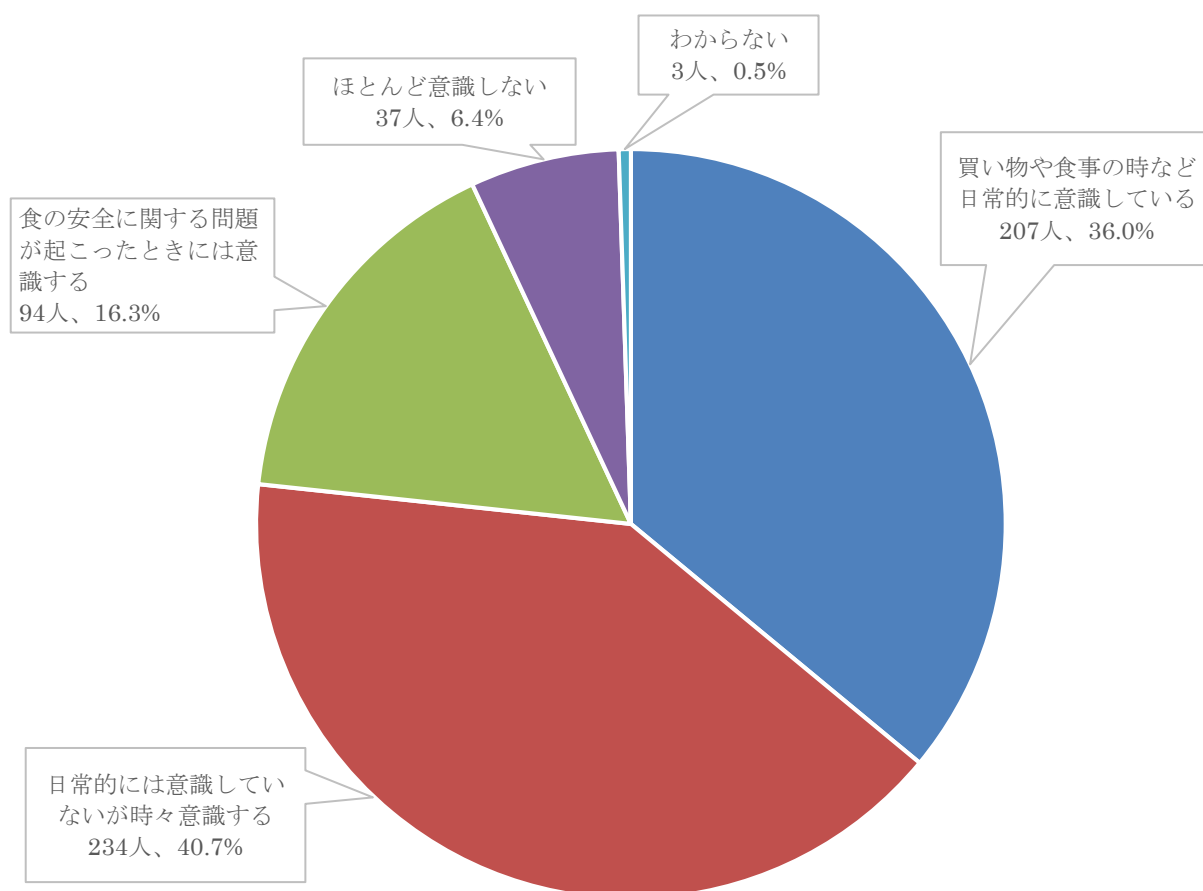


食品の安全性について、「どちらかといえば不安を感じている」「不安を感じている」と回答された方248人に、どのような不安かについて聞いた結果、一番多かったのが「輸入食品の安全性」と回答された方214人（86.3%）、その次に「食品添加物の使用」と回答された方191人（77.0%）、「農薬や動物用医薬品（抗生物質など）の残留」と回答された方173人（69.8%）と続きました。

R1年度のe-モニターアンケートの結果と同様に、「輸入食品の安全性」、「食品添加物の使用」、「農薬や動物用医薬品（抗生物質など）の残留」と回答された方が上位を占めました。

(Q9 食の安全に関する意識について)

あなたは、食の安全についてふだんの程度意識しますか。あてはまるものを1つ選んでください。

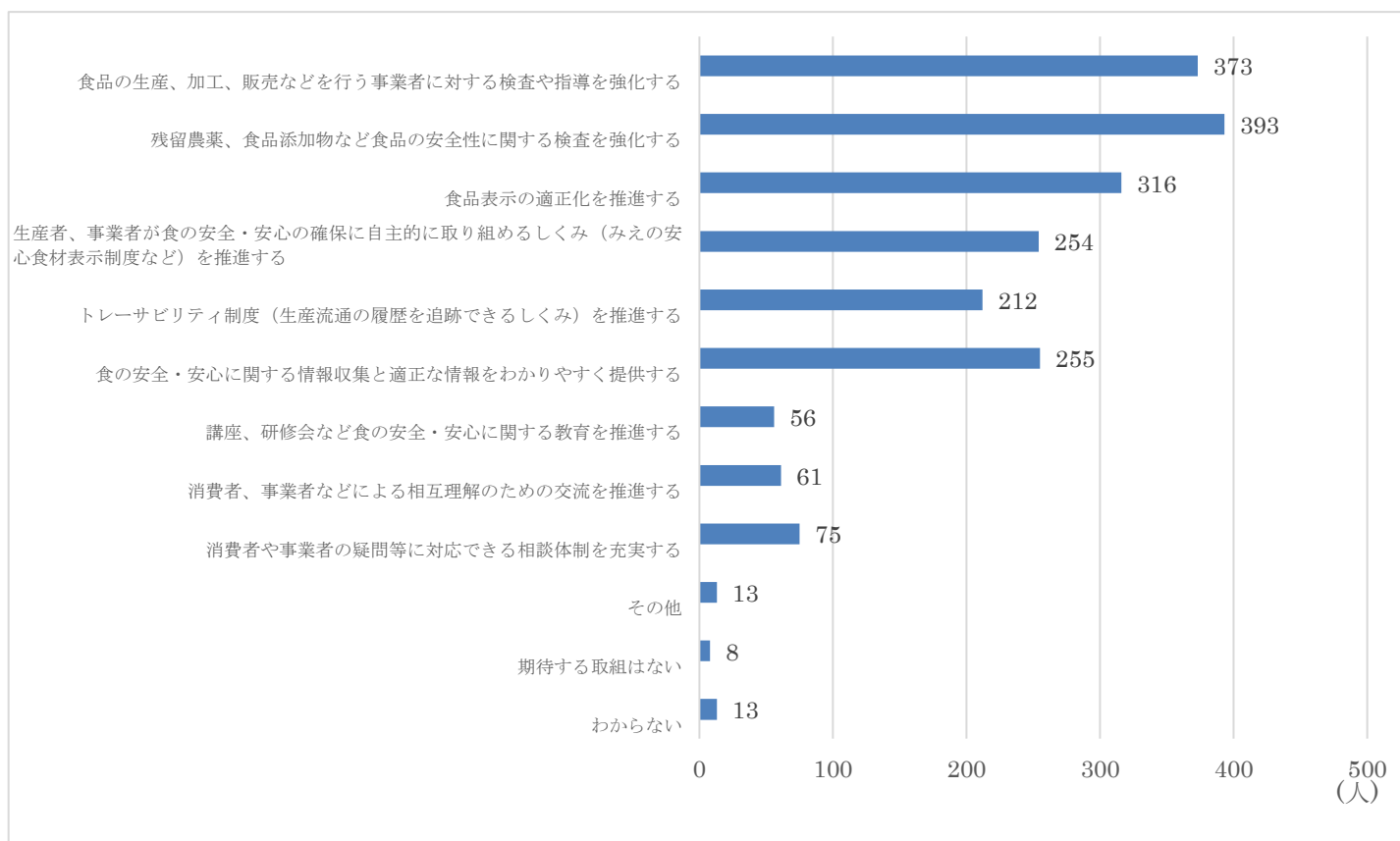


食の安全を意識するのはどのような時かについて聞いた結果、「買い物や食事の時など日常的に意識している」、「日常時には意識していないが時々意識する」と回答された方が合計で441人(76.7%)、「食の安全に関する問題が起こったときには意識する」、「ほとんど意識しない」と回答された方は合計で131人(22.8%)でした。

R1年度のe-モニターアンケートの結果と比べると、「買い物や食事の時など日常的に意識している」、「日常時には意識していないが時々意識する」という方の割合が減り(R1年度は合計で78.5%)、「食の安全に関する問題が起こったときには意識する」、「ほとんど意識しない」という方の割合が増えました(R1年度は合計で21.4%)。

(Q10 食の安全・安心のために行政(国、県、市町)に期待する取組について)

あなたが食品の安全・安心を得るために、行政に期待する取組はどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。



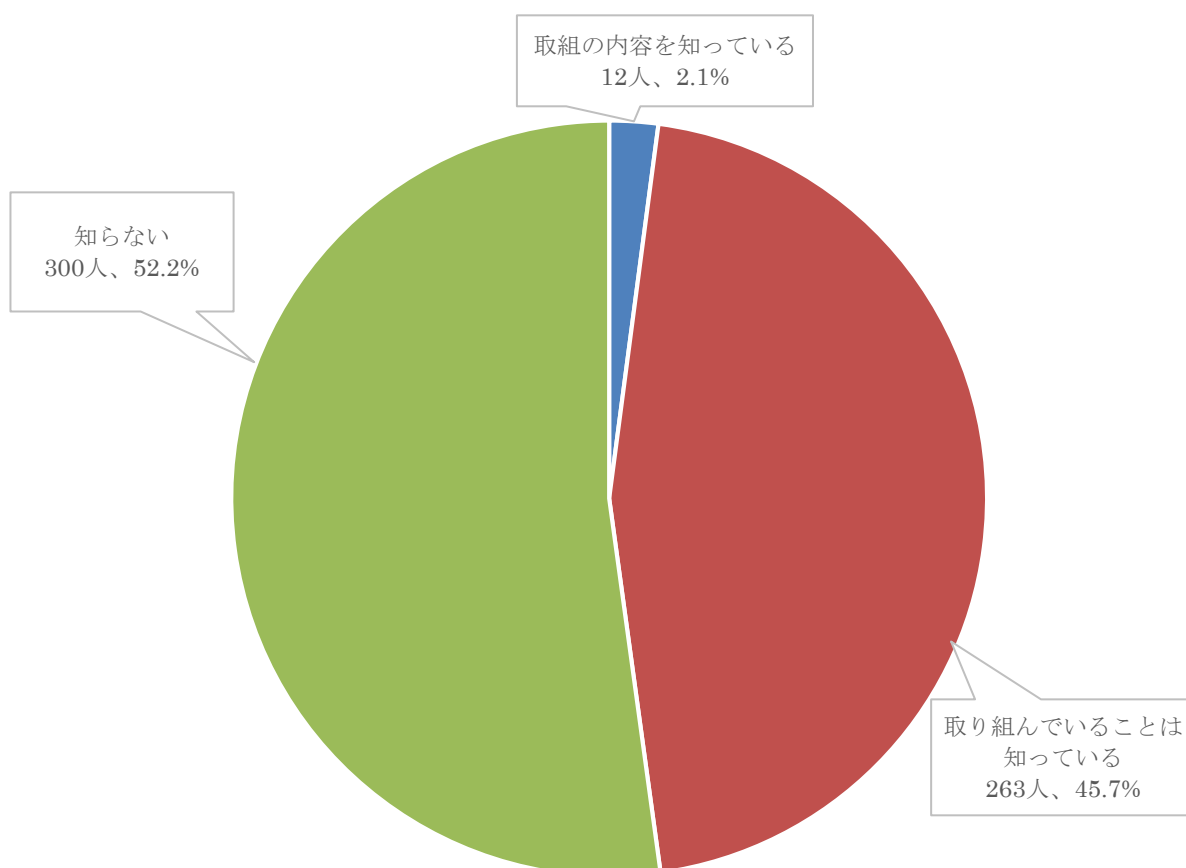
食の安全・安心のために行政に期待する取組について聞いた結果、一番多かったのが「残留農薬、食品添加物など食品の安全性に関する検査を強化する」で 393 人(68.3%)、次に「食品の生産、加工、販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」が 373 人(64.9%)、さらに「食品表示の適正化を推進する」と回答された方が 316 人(55.0%)と続きました。

R1 年度の e-モニターアンケートの結果と同様に、「食品の生産、加工、販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」、「残留農薬、食品添加物など食品の安全性に関する検査を強化する」、「食品表示の適正化を推進する」と回答された方の割合が上位を占めました。

(Q11 食の安全・安心確保のための行政(国、県、市町)の取組について)

あなたは、食の安全・安心確保のために、現在行政が取り組んでいる具体的な取組をどの程度ご存じですか。あてはまるものを1つ選んでください。

※Q10の選択肢に具体的な取組内容を掲げてあります。



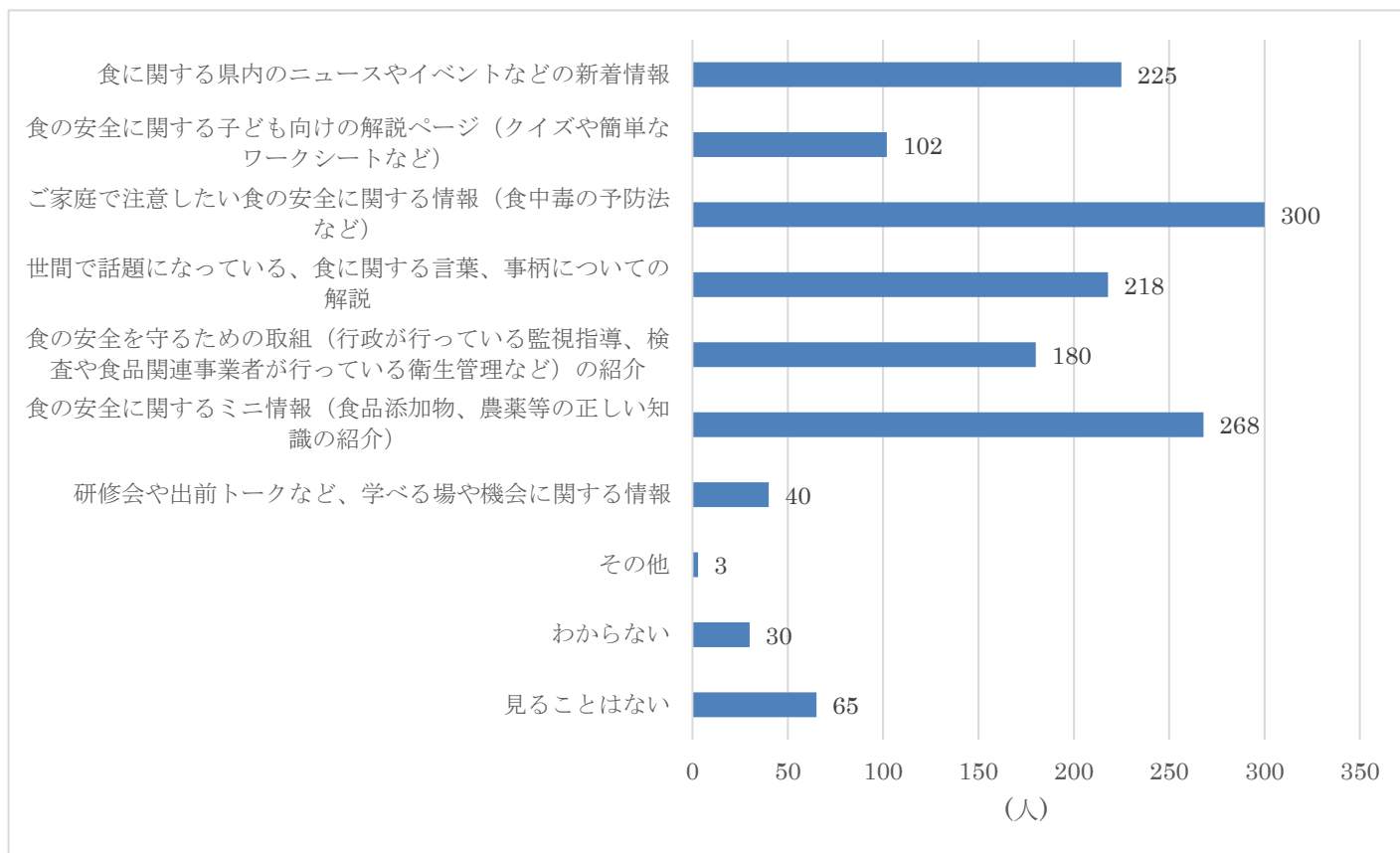
食の安全・安心確保のための行政の取組について聞いた結果、「取組の内容を知っている」「取り組んでいることは知っている」と回答された方が275人(47.8%)で、「知らない」と回答された方300人(52.2%)をやや下回りました。

R1年度のe-モニターアンケートの結果と比べると、「取組の内容を知っている」「取り組んでいることは知っている」人の割合はほぼ同様で(R1年度は47.7%)、「知らない」人の割合もほぼ同様でした(R1年度は52.3%)。

(Q12 三重県のホームページ「食の安全・安心ひろば」について)

三重県では、「食の安全・安心ひろば」というホームページにおいて、食の安全・安心に関する情報や県及び食品関連事業者の取組などを掲載しています。あなたは、県のホームページ「食の安全・安心ひろば」に、どんな情報が掲載されていれば見てみたいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

(参考) 食の安全・安心ひろば <http://www.pref.mie.lg.jp/shokua/hp/>

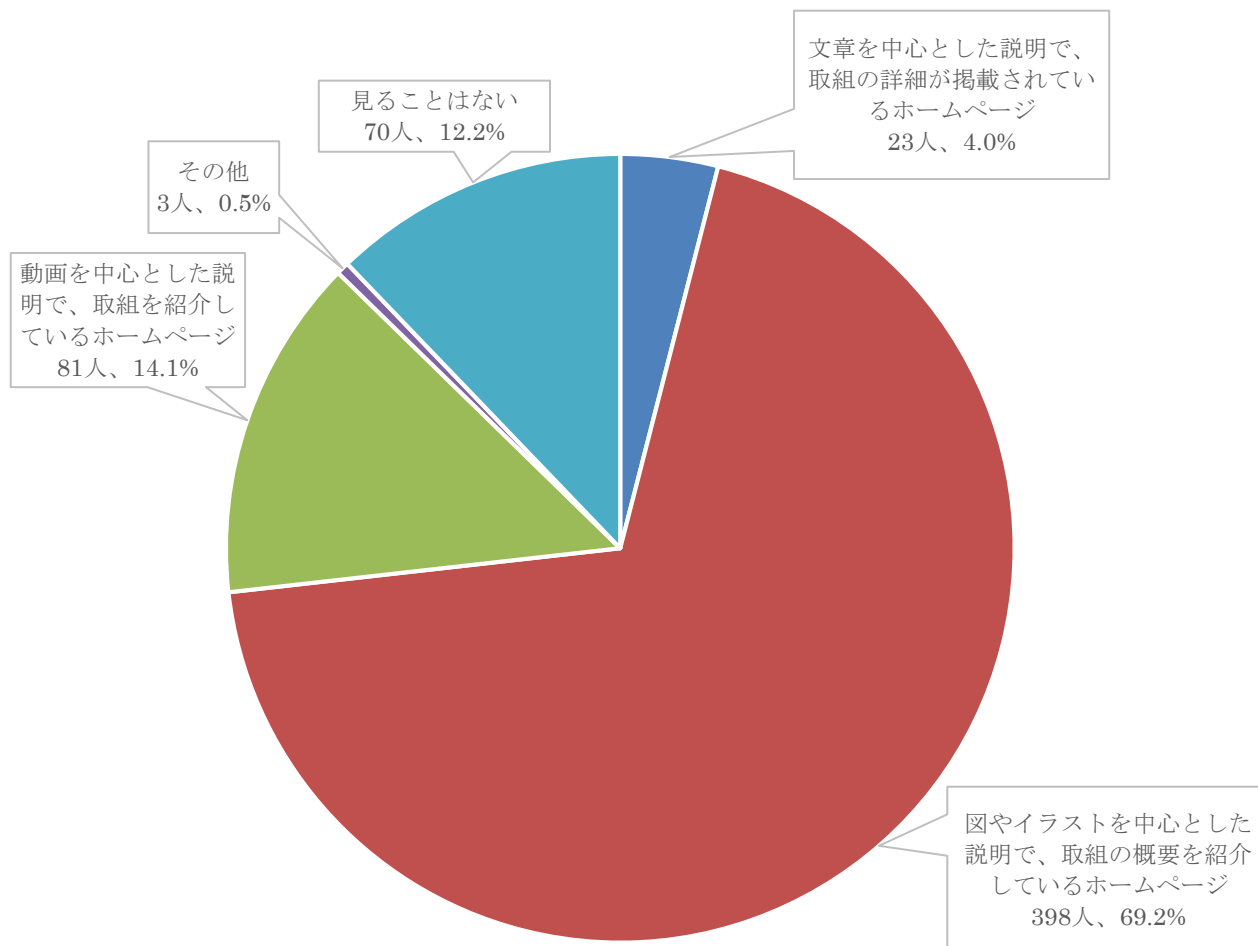


県のホームページ「食の安全・安心ひろば」に、どんな記事が掲載されていれば見てみたいと思うかと聞いた結果、一番多かったのが「ご家庭で注意したい食の安全に関する情報 (食中毒の予防法など)」が300人 (52.2%)、その次に「食の安全に関するミニ情報 (食品添加物、農薬等の正しい知識の紹介)」が268人 (46.6%)、「食に関する県内のニュースやイベントなどの新着情報」225人 (39.1%)と続きました。

これらの回答を元にして、ホームページ「三重県食の安全・安心ひろば」の掲載項目、内容、ページなどを見直し、検討していきたいと思います。

(Q13 三重県のホームページ「食の安全・安心ひろば」について 2)

上記ホームページにおいて、食の安全・安心に関する行政及び食品関連事業者の取組（行政が行っている監視指導、検査や食品関連事業者が行っている衛生管理など）を見る際、どんなホームページを見たいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。



県のホームページ「食の安全・安心ひろば」で食の安全・安心に関する行政及び食品関連事業者の取組を見る際、どんなホームページを見たいと思うかと聞いた結果、一番多かったのが「図やイラストを中心とした説明で、取組の概要を紹介しているホームページ」が398人(69.2%)、その次に「動画を中心とした説明で、取組を紹介しているホームページ」が81人(14.1%)と続きました。

これらの回答を元にして、ホームページ「三重県食の安全・安心ひろば」の掲載項目、内容、ページなどを見直し、検討していきたいと思います。

〈アンケート結果〉

(Q14 あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10に関するアンケート(ベスト10の選定))

2020年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」を発表します

「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」は、県議会の活動内容を広く発信することで県民の皆さんに県議会への関心を持っていただくとともに、参加意識を高めていただけるよう、県議会のホームページやe-モニター等を活用して毎年選定を行っています。

この度、2020年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」として以下の取組を選定しました。

【開かれた議会運営の実現】

- 「みえ現場 de 県議会～若者の県内定着の促進～」を開催《三重大学で討論》

【住民本位の政策決定と政策監視・評価の推進】

- 新型コロナウイルスへの対応《国に意見書提出、補正予算を先議など》

【独自の政策提言と政策立案の強化】

- 「三重県産材利用促進に関する条例検討会」の設置
《県産材の利用促進に向け、精力的に調査》
- 「差別解消を目指す条例検討調査特別委員会」を設置
《様々な差別の解消に向け、精力的に参考人招致などを実施》

【分権時代を切り開く交流・連携の推進】

- 防災、減災、国土強靱化対策に係る意見書を提出
《市議会・町村議会議長会会長と共に国へ要望》

【議員報酬、政務活動費及び選挙など】

- 政務活動費の減額《45%減額することを決定》
- 「選挙区及び定数に関する在り方調査会」の報告
《約1年にわたる調査のとりまとめ》

【その他】

- 「大規模地震対応マニュアル」に基づく訓練の実施
《大規模災害時の議員の行動等を確認》
- 「災害対策会議」の開催《新型コロナへの議会としての対応を協議》
- 「新型コロナウイルス感染症に関する対応マニュアル検討プロジェクト会議」設置
《オンライン会議についても検討》

<選定方法>

1. 「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」の候補として18項目(自由記載を除く)をリストアップ
2. 次の方法により投票を実施（投票期間：令和2年11月27日～12月10日）
 - ・ 県議会ホームページからの県民投票
 - ・ 県議会傍聴者による投票
 - ・ e-モニターによる投票
 - ・ 県議会議員による投票
3. 正副議長が投票の結果を参考にベスト10を選定

2020年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」の投票結果

ベスト10	No.	選考基準	項目	総得票数	内訳					
					HP閲覧者・傍聴者		e－モニター		議員	
					得票数	得票率	得票数	得票率	得票数	得票率
●	1	①	「みえ現場de県議会～若者の県内定着の促進～」を開催《三重大学で討論》(2月)	255	68	52.7%	163	28.3%	24	48.0%
	2		県議会新体制発足《2年目の議会活動をスタート》(5月)	69	17	13.2%	39	6.8%	13	26.0%
	3		「みえ県民力ビジョン・第三次行動計画」等に関し申し入れ《正副議長、各常任委員長から知事へ》(1月)	104	26	20.2%	65	11.3%	13	26.0%
●	4	①	新型コロナウイルスへの対応《国に意見書提出、補正予算を先議など》(2月～)	478	67	51.9%	379	65.9%	32	64.0%
	5		CSF(豚熱)への対応《防疫対策の強化等を求める意見書を国に提出》(3月)	137	34	26.4%	84	14.6%	19	38.0%
	6		「令和2年版成果レポート」に関し申し入れ《全常任委員長から知事へ》(8月)	45	10	7.8%	26	4.5%	9	18.0%
●	7	①	「三重県産材利用促進に関する条例検討会」の設置《県産材の利用促進に向け、精力的に調査》(1月)	190	38	29.5%	124	21.6%	28	56.0%
	8		「外国人労働者支援調査特別委員会」からの提言《正副委員長から知事へ》(3月)	130	28	21.7%	91	15.8%	11	22.0%
●	9	①	「差別解消を目指す条例検討調査特別委員会」を設置《様々な差別の解消に向け、精力的に参考人招致などを実施》(5月)	176	41	31.8%	110	19.1%	25	50.0%
	10		北朝鮮による日本人拉致問題の早急な解決を求め決議《拉致問題解決に向け議会としてのメッセージを発信》(6月)	98	19	14.7%	68	11.8%	11	22.0%
	11		「議員勉強会」を開催《テーマはデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進》(7月)	79	27	20.9%	39	6.8%	13	26.0%
	12		「紀伊半島三県議会交流会議」を開催《共通課題について国へ要望》(7月)	114	29	22.5%	81	14.1%	4	8.0%
●	13	①	防災、減災、国土強靱化対策に係る意見書を提出《市議会・町村議会議長会会長と共に国へ要望》(10月)	268	41	31.8%	202	35.1%	25	50.0%
●	14	①	政務活動費の減額《45%減額することを決定》(5月)	293	62	48.1%	197	34.3%	34	68.0%
●	15	②	「選挙区及び定数に関する在り方調査会」の報告《約1年にわたる調査のとりまとめ》(10月)	139	41	31.8%	62	10.8%	36	72.0%
●	16	①	「大規模地震対応マニュアル」に基づく訓練の実施《大規模災害時の議員の行動等を確認》(1月)	299	49	38.0%	228	39.7%	22	44.0%
●	17	②	「災害対策会議」の開催《新型コロナへの議会としての対応を協議》(4月)	243	46	35.7%	181	31.5%	16	32.0%
●	18	①	「新型コロナウイルス感染症に関する対応マニュアル検討プロジェクト会議」設置《オンライン会議についても検討》(8月)	373	60	46.5%	283	49.2%	30	60.0%
	19		その他	32	4	3.1%	20	3.5%	8	16.0%
得票総数				3,522	707		2,442		373	
投票者数				754 (784)	129 (102)		575 (636)		50 (46)	

() は前年の投票者数

●は「ベスト10」に選定したもの

■は各投票の上位10項目

①は3つの投票結果の全てで上位10位以内に入ったもの(8つ)

②は2つの投票結果で上位10位以内に入ったもの(2つ)

※得票率：得票数／投票者数

※HP閲覧者の投票者数：115人

※傍聴者の投票者数：14人

※e－モニター登録者数：951人(回答率60.5%)

2020年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」（概要）

（令和2年11月19日現在）

～開かれた議会運営の実現～

2月	① 「みえ現場 de 県議会～若者の県内定着の促進～」を開催《三重大学で討論》
<p>「みえ現場de県議会」は、県議会広聴広報会議の委員等が県内各地に出向き、直接県民の皆さんからご意見をお聞きする議会広聴の取組の一つです。</p> <p>2月14日に三重大学で、「若者の県内定着の促進」をテーマに開催しました。当日は、若者の県内定着の促進に取り組む関係者の方や若者の県内定着に関心のある方々が、高等学校卒業後や高等教育機関卒業後の県内定着に向けた取り組み等について意見交換を行いました。</p>	



みえ現場 de 県議会


～住民本位の政策決定と政策監視・評価の推進～


2月～	② 新型コロナウイルスへの対応《国に意見書提出、補正予算を先議など》
<p>令和2年2月定例会月会議において、新型コロナウイルスへの対応に係る意見書を全会一致で可決し、議長から国関係機関等に提出しました。</p> <p>3月会議では、令和元年度及び令和2年度の関連補正予算を可決しました。</p> <p>6月、9月の定例会月会議のほか、4月、5月、8月には緊急会議を開催し、全員協議会において随時県当局の対策等を確認しながら、提出された新型コロナウイルス感染症に関する関連補正予算を迅速に審議・可決しました。</p> <p>なお、6月定例会月会議では、感染拡大防止に向けた取り組みを速やかに実行できるよう関連補正予算の先議（6月10日可決）を行いました。</p> <p>※11月定例会月会議では、執行部幹部職員に新型コロナウイルス感染症の疑いが生じたことから、12月4日の朝、急きょ災害対策会議を開催し、同日実施予定の一般質問の延期について協議しました。これを受け、その後の本会議で当日の一般質問を延期することを決定しました。</p>	




参議院請願課長に意見書を手渡す議長

～独自の政策提言と政策立案の強化～

1月	<p>③ 「三重県産材利用促進に関する条例検討会」の設置 《県産材の利用促進に向け、精力的に調査》</p>
<p>三重県産材の利用の促進に関し、条例の制定に向けた調査および検討を行うため、1月に「三重県産材利用促進に関する条例検討会」を設置しました。</p> <p>令和3年3月の条例案提出をめざして、10月までに13回の検討会を開催し、木材利用に関わる関係者からの聴き取りや兵庫県議会と兵庫県関係部局からの聴き取りなどを行い、検討を進めました。</p> <p>また、7月には少人数の委員による調査も含め、合わせて4回の県内調査を実施し、県内の県産材利用に関わる現場の実態や課題等を調査しました。</p>	
	
<p>ウッドピア松阪での県内調査</p>	

5月	<p>④ 「差別解消を目指す条例検討調査特別委員会」を設置 《様々な差別の解消に向け、精力的に参考人招致などを実施》</p>
<p>様々な差別の解消に向け、既存の条例との整合を図りながら、新たな条例制定も視野に入れ、調査・検討を行うため、5月に「差別解消を目指す条例検討調査特別委員会」を設置し調査を進めています。</p> <p>特別委員会では、新型コロナウイルス感染症に関わる差別、インターネットによる人権侵害、部落差別、女性・性に関する差別、外国人に対する差別などの実態を調査するため、10月までに13回会議を開催し、その中で、合わせて7回の参考人招致を実施しました。</p>	
	
<p>参考人招致の実施</p>	

～分権時代を切り開く交流・連携の推進～

10月	<p>⑤ 防災、減災、国土強靱化対策に係る意見書を提出 《市議会・町村議会議長会会長と共に国へ要望》</p>
<p>9月定例会月会議において可決された「防災、減災、国土強靱化対策の継続及び拡充を求める意見書」を、10月1日に議長が国関係機関に対して提出し、要望の実現を働きかけました。</p> <p>特に、国土強靱化担当大臣あての意見書については、三重県市議会議長会会長の世古明伊勢市議会議長、三重県町村議会議長会会長の上村久仁南伊勢町議会議長とともに内閣官房国土強靱化推進室を訪れ、五道仁実次長に対して直接手渡しました。</p>	
	
<p>内閣官房国土強靱化推進室次長に意見書を手渡す3議長</p>	

～議員報酬、政務活動費及び選挙など～

5月	⑥ 政務活動費の減額《45%減額することを決定》
<p>新型コロナウイルス感染症対策の推進に資するため、議会における会派に係る政務活動費を減額することを決定しました。</p> <p>その内容は、令和2年7月から令和3年6月までの間、45%減額（既に30%減額しているところに15%を上乗せ）するものです。</p> <p>これを踏まえ、正副議長が、知事に報告を行うとともに、新型コロナウイルス対策の充実について申し入れを行いました。</p> <p>なお、政務活動費の減額は、6月30日、議員提出議案として本会議に上程され、同日可決されました。</p>	



知事への申し入れ

10月	⑦ 「選挙区及び定数に関する在り方調査会」の報告 《約1年にわたる調査のとりまとめ》
<p>昨年6月28日に、三重県議会における選挙区及び定数の在り方について調査するため、「選挙区及び定数に関する在り方調査会」を設置しました。</p> <p>調査会では、大学教授など外部の有識者8名を委員として、「人口減少・地方創生時代における県議会の在り方や果たすべき役割」とそれらを踏まえた「三重県議会の議員の定数及び選挙区の在り方」について、10回の会議と2回の現地調査を通じて調査が進められました。</p> <p>本年10月20日に、東京大学で調査会の金井座長から議長に対して、約1年にわたる調査の結果をとりまとめた報告書が提出されました。</p>	



座長から報告書を受け取る議長

～その他～

1月	⑧ 「大規模地震対応マニュアル」に基づく訓練の実施 《大規模災害時の議員の行動等を確認》
<p>大規模地震対応マニュアルに基づき、1月15日、災害発生時に議員や事務局職員がとるべき行動、役割等を確認することを目的に「大規模地震対応訓練」を実施しました。</p> <p>訓練は、本会議中に三重県南東沖を震源とする南海トラフ地震が発生（三重県内最大震度7）という想定で実施。地震発生の声が流れると、議長の指示で議員らは机の下に隠れ、身の安全を確保する姿勢をとり、その後、周囲の安全を確認した上でヘルメットを着用し、非常階段を使って議事堂の正面玄関前まで避難しました。</p> <p>最後にマニュアルに基づき、地震発生から72時間経過後最初に到来する午後1時という想定で、災害対策会議を実施しました。</p> <p>議会独自で行う災害訓練としては初めての取り組みでした。</p>	



議場での訓練

4月	⑨ 「災害対策会議」の開催《新型コロナへの議会としての対応を協議》
<p>新型コロナウイルス感染症に的確に対応していくため、「大規模な災害その他緊急事態への対応に関する三重県議会指針」を適用し、4月17日から5月29日にかけて8回の災害対策会議を開催しました。</p> <p>議会運営や議員の行動等について、様々な協議を行うとともに、議会の基本的な方針である「三重県議会新型コロナウイルス感染症対応方針」を定めました。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症に関する執行部の取組等についても説明を受け、質問を行うなどの対応を行いました。</p>	



災害対策会議

8月

⑩ 「新型コロナウイルス感染症に関する対応マニュアル検討プロジェクト会議」設置《オンライン会議についても検討》

コロナ禍における議会の対応方針を示すマニュアルを策定するため、8月19日の議会改革推進会議役員会において議員8名で構成する「新型コロナウイルス感染症に関する対応マニュアル検討プロジェクト会議」を設置しました。

8月28日には第1回会議を開催し、以降10月28日までに6回の会議を開催し、精力的にマニュアル策定に向けた検討を行いました。

プロジェクト会議では、これまでの新型コロナウイルス対策にかかる議会の取り組みの検証、これらを踏まえた今後の議員の行動指針の検討等を行うほか、議員参集のリスクが生じた場合の、委員会のオンライン開催にかかる条例改正についても検討を行いました。



プロジェクト会議